

高齢社会に生きる私たち

家庭 家庭基礎 第1学年
石川県立小松高等学校・教諭

1 事例の概要

本校は、文武両道を目指す進学校である。近年、核家族化が進む中、拡大家族が46%と比較的祖父母との同居率が高い。しかし、日常生活において、勉学や部活動に忙しく、祖父母との生活時間のずれも大きく、高齢者との関わりが薄れているのが現状である。

我が国の高齢化が進む中、高校生には、加齢に伴う一般的な心身の変化や特徴を理解し、高齢者を肯定的にとらえ、高齢者とかかわることができるようになることが望まれる。

高齢者の心身の特徴や生活について、自分の問題としてとらえることができるよう高齢者疑似体験や絵本の活用を通して生徒が主体的に取り組む学習活動を工夫し、家庭や地域及び社会でどのように高齢者とかかわったらよいかという態度を育成させたいと考えた。

さらに、身近な高齢者の生活について発表し合うことで、高齢者を否定的にとらえるのではなく生き生きとした高齢期を迎えるためにはどうすればよいかを具体的に考えさせ、今後の生活設計ともかかわらせていきたいと思い取り組んだ。

2 実践内容

(1) 単元の目標

高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 高齢者疑似体験

高齢者疑似体験（白内障、握力低下、膝サポーター）を通して、高齢者の日常生活を実感し、対象者の気持ちやノーマライゼーションについて考えさせるきっかけとする。なお、市販品は高額なので軍手等で代用し、膝サポーターやゴーグルについては、近隣の学校から借用する。

② 絵本を活用したケーススタディ

絵本の家族を題材に家族がかかえる問題点についてグループで話し合う。お互い発表し合うことで多様な意見の中から、問題解決能力を育成する。

問題発見 → 解決法の列挙 → 解決法の結果の予測 → 解決法の選択・決定

③ 身近な高齢者から学ぶ

生徒の日常生活の中で、生き生きと活躍する高齢者について発表し、未来の自分はこうありたいという希望の姿からどのような生活を送ればよいかを考えさせる。また、家庭や地域社会における高齢者とのつながりを理解し、高齢者との関わりについて考えさせる。

B-1 ワークシート

B-2 ワークシート

3 指導の実際 指導と評価計画（総時間 5時間）

時間	学習活動	評価規準・評価方法 (ワ：ワークシート、行：行動観察、定：定期考査)
1	60年後の自分をイメージすることから高齢社会の現状と問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者をイメージすることから高齢者に関心をもち、現状と課題について考えようとしている。【関心・意欲・態度】(ワ) ・高齢社会の現状について理解している。【知識・理解】(定)
2	高齢者疑似体験から、高齢者の心身の特徴と生活を理解し、高齢者との関わり方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験から高齢者の特徴や関わり方について考えをまとめている。【技能・表現】(行) ・高齢者の心身の特徴を理解している。【知識・理解】(定)
3	絵本『おばあちゃん』の家族が抱える問題点を発見し、解決法を見つけ出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の家族の問題点を考え、家族の一員として高齢者との関わりについて考えを深めている。【思考・判断】(ワ) ・高齢者家族の適切な関わり方について発表することができる。【技能・表現】(行)
4	高齢者福祉の基本的な考え方や法律、制度について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立を知ることにより、自分の生活設計に考えを広げようとしている。【関心・意欲・態度】(ワ) ・自分らしい高齢期を迎えるためにどのような準備をすればよいか考えている。【思考・判断】(ワ)
5	生き生きとした高齢者の発表から充実した高齢期の迎え方や今どうすべきかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉の基本的な考え方や法律、制度について理解している。【知識・理解】(定)

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

① 高齢者疑似体験

色眼鏡をかけてはしゃいでいた生徒も、学習後は、「見にくそう」と少しは高齢者の気持ちになれた様子で、疑似体験ではあるが、今後の接し方で気遣いができるようになったと思われる。

② 絵本を活用したケーススタディ

絵本を用いた授業では、短時間で集中して意見を出し合えるため、課題解決に向けた効果的な学習法ではないかと思われた。また、意見発表が苦手な生徒も付箋に書き出すことで、参加しやすい形態となった。

③ 身近な高齢者から学ぶ

雨天時の送迎や畑仕事など日々の生活の中で高齢者に支えられているという生徒もあり、高齢者との関わりがより身近に感じられた。

(2) 課題

実際に高齢者と同居の生徒からは、「現実すぎて嫌だ」とか、「女が介護するもの」と決めつけた意見など様々であった。生徒の意見の中から、さらに高齢者福祉に対する理解を深めていく必要性を感じた。

高齢者の心身の特徴については疑似体験を通してある程度理解できたのではないかと思われるが、高齢者を肯定的にとらえ、今後の人生設計につなげるという点に関し、心に響く授業を行うためには「高齢者からの生の声」が一番の刺激になるのではないかと思われた。

D-1 生徒アンケート

